

# 誤解だらけの “依存症” in 東京

入場無料  
事前申込制

依存症の人って意思が弱いから繰り返しちゃうの？  
—いいえ、実はちがうのです。誤解や偏見なく  
依存症という病気を理解していただくためのイベントです。



## 2019年3月6日(水)

[時間] 17:00～(開場:16:30)

※整理番号順に会場内にご入場いただきます。

[場所] 時事通信ホール(東京都中央区銀座5-15-8)

[最寄駅] 東京メトロ日比谷線・都営浅草線  
東銀座駅(6番出口)から徒歩1分

### 音楽・トークイベント



依存症理解啓発  
サポーター

前園真聖

元サッカー日本代表



大森靖子

超歌手



松本俊彦

国立研究開発法人  
国立精神神経医療研究センター  
精神保健研究所 薬物依存研究部 部長

申し込み  
方法

【WEB】右記QRコードより、必要事項をご記入の上お申し込みください。

【FAX】裏面の申込フォームへご記入の上03-3545-1125へご送付ください。

申込期限：2月22日(金)〆切

参加可否：2月26日(火)にご記入いただいたメールアドレスまたはFAXにお送りします。

※当日はメールまたはFAXに記載された整理番号順に指定席をご案内します。



※当日会場にてお答えいただいた  
アンケートを選定、選ばれた方に  
プレゼントをお渡しします。

主催：厚生労働省

# 依存症は「回復できる病気」です。

周りの人の理解が回復を助けます。

依存症は、ある行動を繰り返しているうちにそれをコントロールする脳の機能が弱まってしまう『病気』です。\*1  
決して、意志が弱いからという理由で依存症になるわけではありません。

周りの大切な誰かが何らかの病気にかかったとき、誰も相手を責めたり罰したりはしないでしょう。けれど、依存症となると「どうして何度も繰り返しちゃうの？心が弱いから？」「そもそもなんで依存症になるの？」と叱責してしまう。依存症になった本人でさえ、自分を意志の弱い人間だと思い込み、自らを責め、事態を悪化させてしまうのです。依存症から脱するには、本人はもちろん、周囲が依存症を病気であると理解し適切な支援の手を差し伸べることが必要です。誰もが何かを抱えています。その何かが依存症の場合、患者と支援者とを正しくつなげることで、回復への道が見えてきます。\*2

一度でも何度でも、つまずいたってまた立ち上がって歩き出せる。そんな社会を、みんなで作っていきませんか？

※1 世界保健機関（WHO）は「精神に作用する化学物質の摂取や、快感・高揚感を伴う行為を繰り返し行った結果、さらに刺激を求める抑えがたい渴望が起こり、その刺激を追及する行為が第一優先となり、刺激がないと精神的・身体的に不快な症状を引き起こす状態」と定義しています。

※2 自助グループや自治体の精神保健福祉センター、専門医療機関などが支援先としてあげられます。

本日のイベントの様子は「YouTube」で生配信！  
イベントの情報やコンテンツは Twitter または HP をご覧ください。

 Twitter



公式HP



 YouTube



## イベント応募フォーム (FAX : 03-3545-1125)

氏名（フリガナ）

住所（都道府県）

（市町村）

電話番号

FAX 番号

依存症について関わるお立場がありましたら、選択してください。

特になし  依存症当事者およびご家族  自助グループ・支援団体等  医療機関  行政機関

## お問い合わせ先

依存症やその関連問題についてお困りの方は最寄りの保健所、精神保健福祉センター、民間団体（自助グループ・支援団体）などで相談を行っています。  
詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

